

第5回近畿美術館博物館・芸大研修報告

○活動期間…令和4年8月4日(木)、8月5日(金)

○活動場所…三重県立美術館・伊勢神宮周辺

奈良県立香芝高等学校 和田 舞

令和4年8月4日(木)

講義「美術科授業における鑑賞教育」

講師：有賀三夏氏／画家、アートセラピー研究者、金沢大学講師

著書として「自分の強みを見つけよう～「8つの知能」で未来を切り開く～」がある

第5回の「近畿美術館博物館・芸大研修」は三重県で開催された。はじめに、対話型鑑賞についての手法についての紹介があり、「①Seek見る ②Think考える ③Wonder不思議に思う」という流れで、ゴッホの絵画「3足の靴」を鑑賞した。対話型鑑賞とは、見て、感じて不思議に思った事実を言語化して対話する手法であり、取り組みやすい鑑賞法である。授業において造形的な見方、考え方で鑑賞し自分なりの意味や価値を見つけられるようにするといった展開が考えられる。

次に、「多重知能理論」についてうかがった。「多重知能理論」とはアメリカの心理学者ハーワード・ガードナー氏が提唱したもので、人間の知能を8つの知能に分類する考え方である。全ての人はこの8つの知能がありその組み合わせは多様であり一人一人異なっている。障害のある児童に対してその母親がこの理論を知ることによって我が子の成長にも可能性を見いだせたという事例の紹介があった。教育の場でも一人一人の個性を理解した上で、得意分野を見出すことは重要だと考える。

有賀氏が研究されているアートセラピーについては、認知症の脳機能回復に効果的とのことであるが、日本は海外ほど普及していない。また、今後必要となる創造性とは個人レベルのものではなく、公共における創造性、チャリティ精神やホスピタル精神などのGood work(善行)が社会や教育において重要であるというお話が印象的だった。

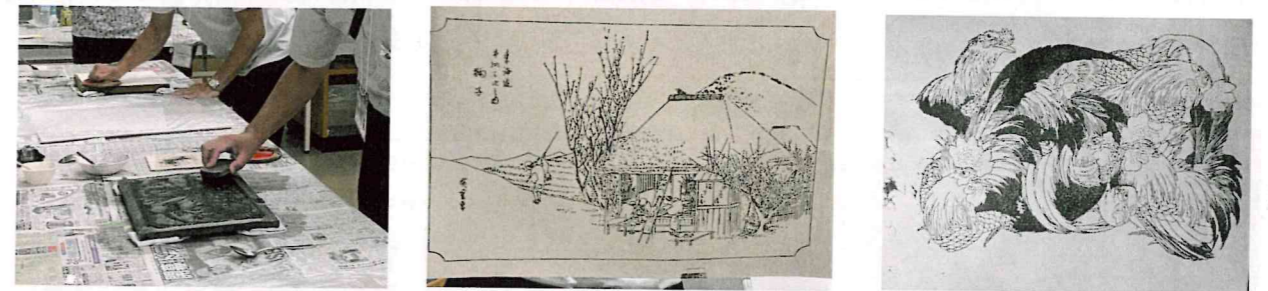
実技研修「江戸木版画」講師：森光美智子氏 多版多色木版浮世絵
「神奈川沖浪裏 葛飾北斎」多色摺りの実演



浮世絵の多色木版について、実演を交えてお話をうかがい、後半は主版摺りを体験した。研修会場では、雲母摺などの技法で摺られた浮世絵作品を多数披露していただき、鑑賞した。

摺る順番はまず輪郭線から摺り次に色版を重ねていくことと、大きい面積の色版から摺ると湿気で和紙が伸び版を増やしていくと絵柄がずれるため小さい色面の色版から摺ることが重要である。浮世絵の絵の具は水彩絵の具などの透明水彩に洗濯糊を混ぜて作る。パレンは持ち手の中に薬指や小指を入れずに握り、円を描くようにコの字に摺る。絵の具を多くつけすぎないことがコツである。乾燥した部屋で摺ると和紙を湿らせていても版の上で絵がずれるので、湿度も重要であることを学んだ。パレンで頭を擦り定期的に髪の毛の油をつける長年の職人技も拝見した。

摺り体験「東海道五拾三次 鞠子 歌川広重」／「群鶏 葛飾北斎」主版摺り実技体験



三重県立美術館 鑑賞

〈常設展〉黒田清輝、岡田三郎助、佐伯祐三などの洋画の他に、三重県ゆかりの作家の作品が所蔵されている。また、三重県はスペインのパレンシア州と姉妹提携をしておりマルク・シャガールの作品やダリやピカソの作品も所蔵されている。三重県の学校との連携も行っており美術館鑑賞、出張授業、アートカードなど鑑賞教材の貸し出しなどを継続して行っておられるとのこと。

〈企画展〉開館40周年記念 いわさきちひろ展—中谷泰を師として

いわさきちひろと、いわさきに油絵を教えるなど交流があった松坂出身の中谷泰の作品を鑑賞した。他に、plaplaxによる体験型メディアアート作品を鑑賞した。



令和4年8月5日(金)

猿田彦神社参拝、伊藤小坡美術館作品鑑賞、伊勢神宮神楽殿奉納と内宮特別参拝、おかげ横丁散策

宇治橋を渡って進み、内宮神域を流れる五十鈴川で手を清め、内宮へ向かった。階段を上がると天照大神を祀る伊勢神宮内宮神楽殿があり、宮司と巫女による雅楽と舞のお神楽の奉納があった。その後、内宮に特別参拝し美術教育の発展を祈念した。次に伊藤小坡美術館と猿田彦神社を訪れた。伊藤小坡は京都画壇の中心として活躍し、明治、大正、昭和を代表する女流日本画家である。宇治山田駅は伊勢神宮の玄関口で知られており、国の登録有形文化財にも登録されている。美しい照明が印象的でレトロな雰囲気の駅舎であった。

今回の研修では、コロナウイルス感染症感染拡大防止対策中の開催であり、研修を半分の人数ずつ制限して実施したり、急遽行き先の変更もあったりと、運営の方々には大変ご配慮いただいた。深く感謝するとともに今後も美術教育を通して交流を深め、美術教育の発展に努めていきたい。

